

3. 事業概要

(1) 常設展

常設展示室は全体で5室の構成となっている。第1室は「山梨の文学風土」と「樋口一葉」コーナー、第2室は「山梨出身ゆかりの作家と作品」、第3室は芥川龍之介コーナー、第4室は飯田蛇笏・飯田龍太記念室として年4回春夏秋冬に一部の資料の入れ替えを行っている。第5室は山梨出身・ゆかりの作家104名をジャンルごとに年2回入れ替えて紹介している。

なお、令和3年8月8日（日）～9月12日（日）は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全面休館とした。

以下の資料一覧には、令和3年3月9日（火）～令和4年3月6日（日）の間、常設展示室に出品した資料すべてを提示した。

第1室

期間限定公開

◆ 春の常設展 3/9（火）～6/6（日）

信玄公生誕500年関連展示 信玄を描いた小説

山本周五郎文学碑 写真パネル

山本周五郎「山彦乙女」新聞切り抜き

山本周五郎『山彦乙女』1952（昭和27）年2月 朝日新聞社

深沢七郎「笛吹川」原稿

深沢七郎『笛吹川』1958（昭和33）年4月 中央公論社

谷内六郎 画 深沢七郎『笛吹川』装幀原画（函・扉・カット）

相田隆太郎「武田信玄」原稿・新聞切り抜き

相田隆太郎『武田信玄』1989（平成元）年1月

竹内勇太郎「謙信対信玄」原稿

◆ 夏の常設展 6/8（火）～8/7（土）

山梨の現代作家 林真理子

「葡萄が目にしみる」「白蓮れんれん」「正妻 慶喜と美賀子」「西郷どん！」原稿

「わたしのししゅう」（小学校時代の詩原稿の冊子）

瀬戸内寂聴「つぶらなるまり子のひとみ阿波の春」額装

林真理子画「美女入門」イラスト原画

◆ 秋の常設展 9/14（火）～11/28（日）

山梨の現代作家 辻村深月

「冷たい校舎の時は止まる」浄書原稿（2017年の当館特設展「作家のデビュー展」のために執筆）

限定愛蔵版『冷たい校舎の時は止まる』（2019年6月 講談社）

『ロードムービー』初版署名本（2010年9月 講談社）

『ツナグ』初版署名本（2010年10月 新潮社）

◆ 冬の常設展 11/30（火）～令和4年3/6（日）

山梨の現代作家 神永学

「心霊探偵八雲 赤い瞳は知っている」浄書原稿

『赤い隻眼』2003（平成15）年1月 文芸社

『怪盗探偵 山猫 虚像のウロボロス』2013（平成25）年3月 角川書店 署名本

『浮雲心霊奇譚』シリーズ 2014（平成26）年11月～2021年5月 集英社

「小説すばる」2021（令和3）年10月号 他

山梨の文学風土

◆ 甲斐のうた（パネル展示）

酒折の宮／塩の山・差出の磯／都留の郡／甲斐の牧

◆ 甲州の紀行文

深草元政『身延道の記』元禄17年刊
萩生徂徠『徂徠集』卷之十五 元文元年序文「峡中紀行」収録
賀茂季鷹『富士日記』文政6年刊

◆ 甲府学問所 徽典館

乙骨耐軒「徽典館学頭勤務割」
乙骨耐軒「維心亨齋詩」三集上・下
甲府勤番支配宛 徽典館学頭任命通知書

◆ 国学を学んだ人々

萩原元克編『甲斐名勝志』天明3年9月刊
萩原元克「うまひとのとひきまさずばいたづらに庭の真萩はちりゆかましを」短冊
本居宣長点 辻守瓶「春十首」和歌

樋口一葉（ひぐち いちよう）

樋口一葉女史建碑記念短冊複製
樋口一葉「詠草」1895（明治28）年9月
樋口一葉「本郷五丁目」草稿幅
樋口一葉 古屋よし宛書簡 1890（明治23）年7月
樋口一葉 雨宮源吉宛書簡 1890（明治23）年7月
樋口一葉 伊庭隆次宛書簡 1893（明治26）年4月24日
樋口一葉 馬場孤蝶宛書簡 1895（明治28）年10月9日
樋口一葉「さぐれいしの昔よりして契りけん岩ねをめぐるたに河のみづ」短冊幅
吉川学校下等小学第八級卒業証書 1878（明治11）年6月
青海学校二級后期卒業證書
樋口一葉「たけくらべ」原稿〈複製〉
樋口一葉「ゆく雲」未定稿〈複製〉
樋口一葉「にごりえ」原稿〈複製〉
幸田露伴「一葉女史碑」碑文下書き原稿 3枚
幸田露伴「一葉女史日記の後に書す」原稿
仕入れ帖 1893（明治26）年8月〈複製〉
下村為山 樋口一葉肖像画〈複製〉
新五千円札（A000006A番）
写真パネル 母多喜・奈津（7歳頃）・姉ふじ・妹くに 本郷6丁目5番屋敷時代
写真パネル 左から次兄・虎之助、父・則義、長兄・泉太郎
樋口虎之助作 薩摩焼金襴手絵皿「東海道五十三次」一对、同 薩摩焼金襴手花瓶一对
写真パネル 萩の舎集合写真
写真パネル 半井桃水
写真パネル 竹内桂舟画「うもれ木」第7回挿絵
写真パネル 文学界同人
写真パネル 一葉女史の碑建碑の日 1922（大正11）年10月15日
「にごりえ」映画パンフレット
「にごりえ」ちらし
「にごりえ」ポスター 1998（平成10）年 帝国劇場

第2室

井伏鱒二（いぶせ ますじ）

井伏鱒二「甲州北巨摩の大武川」草稿
井伏鱒二「甲斐の黒駒」草稿
井伏鱒二「旧・笛吹川の址地」原稿〈複製〉

井伏鱒二「波高島」原稿〈複製〉
井伏鱒二「子熊のクロ」原稿
井伏鱒二「青柳瑞穂と骨董」原稿
井伏鱒二 野上照代宛書簡 1985（昭和60）年8月2日
井伏鱒二「今日は仲秋名月 何々をしのぶ宵わしら萬障くりあはせよしの屋でひとり酒をのむ」軸装
井伏鱒二「わたくしは平凡な言葉を好きな人間になりたい」額装
井伏鱒二・奥山巖「送状 水門町八大酔我等大酔 奥さん叱る勿れ」額装
井伏鱒二「私は樹木が好きである特に竹柏樟白楨棗の木などに愛着を持つてゐる」軸装
井伏鱒二「はるのねざめのうつゝできけばとりのなくねでめがさめました」軸装
井伏鱒二「近逢春時」額装
井伏鱒二 画 絵付け皿
井伏鱒二『厄除け詩集』1937（昭和12）年5月 野田書房
井伏鱒二『黒い雨』1966（昭和41）年10月 新潮社
井伏鱒二『ドリトル先生アフリカ行き』1941（昭和16）年12月 フタバ書院
井伏鱒二『ドリトル先生航海記』1952（昭和27）年2月 講談社
井伏鱒二『ドリトル先生月へゆく』1955（昭和30）年12月 岩波書店
井伏鱒二『ドリトル先生の動物園』1979（昭和55）年2月 岩波書店 1991（平成3）年2月19刷
「新潮」第81巻第1号 1984（昭和59）年1月

太宰 治（だざい おさむ）

太宰治「ヴィヨンの妻」原稿〈複製〉「展望」1947（昭和22）年3月掲載
太宰治「陰火」原稿〈複製〉
太宰治「ア、秋」原稿〈複製〉
太宰治「座談会太宰治氏の死について」原稿
井伏鱒二「太宰君」原稿「文藝雑誌」1936（昭和11）年4月掲載
太宰治御坂峠文学碑「富士には月見草がよく似合ふ」拓本軸装
太宰治『女生徒』1939（昭和14）年4月 砂子屋書房
太宰治『富嶽百景』1943（昭和18）年1月 新潮社
太宰治『ヴィヨンの妻』1947（昭和22）年8月 筑摩書房
山田貞一画 太宰治『女生徒』表紙原画
写真パネル 御坂峠文学碑除幕式
写真パネル 三鷹の古本屋にて 撮影 田村茂
写真パネル 陸橋にて 撮影 田村茂

檀 一雄（だん かずお）

檀一雄 中国でのスケッチブック
檀一雄「花を天に挿ざし月を地に展ぶ」色紙
檀一雄「此処ニ浮足立つた男が一人居て」色紙
檀一雄「女子共ハ毛梳きてあらむ河明に柳の影もそよぎてあらむよ」色紙
檀一雄「モガリ笛いく夜もがらせ花に逢はん」色紙
檀一雄「姫うつぎ見つつ言祝ぐ子の盛り」色紙
檀一雄 水彩画
檀一雄「秋果百穎」額装
檀一雄「太郎生後九十四日」額装〈複製〉
檀一雄「微笑」（『火宅の人』第1章）原稿〈複製〉
檀一雄「旅立ち」原稿「女性改造」1948（昭和23）年10月掲載〈複製〉
檀一雄「萬葉びとの声」原稿
檀一雄『長恨歌』1951（昭和26）年3月 文藝春秋社
檀一雄『リツ子・その愛』『リツ子・その死』1950（昭和25）年4月 作品社
檀一雄『真説石川五右衛門』1951（昭和26）年9月 新潮社
檀一雄『火宅の人』特装本 1979（昭和54）年6月 新潮社
映画「火宅の人」ポスター 1986（昭和61）年 東映

山本周五郎（やまもと しゅうごろう）

山本周五郎「夏草戦記」原稿〈複製〉
山本周五郎「季節のない街」新聞切り抜き
和泉比呂詩「五月の野辺」草稿〈複製〉
山本周五郎「やぶからし」原稿
山本周五郎「狂い咲きの嬌女」原稿
山本周五郎「多忙」原稿
風間完「樅ノ木は残った」原画
山本周五郎『五辨の椿』1959（昭和34）年9月20日 講談社 装幀 山崎斌
山本周五郎『季節のない街』1962（昭和37）年12月 文藝春秋新社
山本周五郎『樅ノ木は残った』1969（昭和44）年8月 講談社
山本周五郎「五辨の椿」ポスター
写真パネル 芝生の上で 撮影 秋山青磁
写真パネル 映画館 撮影 秋山青磁
写真パネル 浦安時代 撮影 林忠彦

深沢七郎（ふかさわ しちろう）

深沢七郎「榎山節考」原稿〈複製〉
高橋忠弥 深沢七郎『榎山節考』（1957年 中央公論社）装幀原画
深沢七郎『榎山節考』1957（昭和32）年2月 中央公論社
映画「榎山節考」ポスター 1983（昭和58）年
深沢七郎「井伏先生と共に」原稿
深沢七郎 川久保正郎宛葉書 1960（昭和35）年4月2日
深沢七郎「結婚は離婚への第一歩なり」色紙
「深沢七郎ギター独奏集 祖母の昔語り」レコード
深沢七郎選集出版記念「ギターリサイタル」リーフレット
歌舞伎座宣伝部 編 歌舞伎座舞台パンフレット1971.9
横尾忠則画「夢屋」ポスター
写真パネル ギターリストの頃
写真パネル 笛吹市石和町の甲運亭にて 1976（昭和51）年4月6日

山崎方代（やまざき ほうだい）

山崎方代「折から甲斐路の春は深く天まで桃の花盛りなり」額装
山崎方代「水晶の青い峠の頂きになんぢゃもんぢの木が立ってゐる」軸装
山崎方代「茶碗の底に梅干が二つ並びをるこれが愛というものなのだ」軸装
山崎方代「笛吹の川のまさごの正仁に吾の生命をゆだねんとする」軸装
山崎方代「ゆえ知らぬ涙は下る朝の陽が茶碗の中のめしを照せり」軸装
山崎方代「ことごとと雨戸を叩く春の音鍵をはずして入れてやりたり」大短冊軸装
山崎方代「ふるさとの右左口郵は骨壺の底にゆられてあが帰る村」色紙
山崎方代「冬の陽が遠く落ちゆく橋の上ひとり方代は瞳をしばだたく」短冊
山崎方代「冬の日が真綿のやうに射しこんで大正三年も遠くなりたり」短冊
山崎方代「まつ黒くすみたる馬の目の中に釜無川が流れている」短冊
山崎方代「亡き姉よ今御嶽の頂にのぼりて昼の星見けたり」短冊
山崎方代「茶ぶ台の上の土瓶に心中をうちあけてより楽になりたり」短冊
山崎方代「つむがりの白いせつない耳なりき沖には月が登りつゝあり」額装
山崎方代愛用の品 眼鏡 万年筆 文鎮 太筆
山崎方代『方代』1955（昭和30）年10月 山上社
山崎方代『右左口』1973（昭和48）年12月 短歌新聞社
山崎方代『こおろぎ』1980（昭和55）年11月 短歌新聞社
山崎方代『青じその花』1981（昭和56）年12月 かまくら春秋社
山崎方代『迦葉』1985（昭和60）年11月 不識書院

中村星湖（なかむら せいこ）

- 中村星湖『ウェーバリ物語』原稿
中村星湖『ふらんす娘』翻訳草稿
中村星湖「富士五湖の話」原稿
中村星湖『二葉亭四迷を語る』草稿
中村星湖「あめつちを開きし物を生み成せし神業を嗣く人わさたふと」短冊
中村星湖「兵かいくさのにはに果つること君果て給ふ机の上に」短冊
中村星湖「わか園の葡萄は三たひ色つかむ君と相見る健やかにして」短冊
中村星湖「幸ひはこゝにこそ住め朝にたち夕かゝよふ富士やまの裾 昭和三十三年初秋」色紙
中村星湖「少年行」原稿〈複製〉
中村星湖『少年行』現代代表作叢書第12篇 1915（大正4）年10月 植竹書院

前田 晁（まえだ あきら）

- 前田晁「『文章世界』と私」原稿
前田晁「浮浪者」翻訳草稿
前田晁「エミール 第1編 第2編」翻訳草稿
前田晁「エミール 第3章」翻訳草稿
前田顕「坪内先生の温情」原稿
小出権重 画「文章世界」表紙原画〈複製〉
前田晁『少年国史物語』原稿〈複製〉
田山花袋筆「文章世界」創刊号立案〈複製〉
前田晁『明治大正の文学人』1942（昭和17）4月 砂子屋書房

三井甲之（みつい こうし）

- 三井甲之「古事記論」草稿
三井甲之「短歌概論」草稿
三井甲之「讃ゲーテ」草稿
三井甲之「詩界の現情」草稿
三井甲之「事務所にて」他歌稿の内「落日」歌稿
三井甲之「うつりやすきこのよのたのしみうたにうたひとはにかたみとせむはたのしき」短冊
三井甲之「友に 海の波よせてはかへすと思ふよりもよせてはかへすうねりを見たまへ」短冊
三井甲之「自然ノ威力ニ死スルワレモマタ自然ナリ」短冊
三井甲之「ふる雪にうつみて見えぬ伏屋にも隣にかよふ道はありけり」短冊
三井甲之「ふる雪にうつみて見えぬ伏屋にも隣にかよふ道はありけり」短冊
長塚節 三井甲之宛書簡 1908（明治41）年（推定）1月8日〈複製〉
「アカネ」創刊号表紙原稿 1908（明治41）年2月〈複製〉

中里介山（なかざと かいざん）と山梨

- 安岡章太郎「果てもない道中記」原稿（7）「群像」平成3年8月号掲載
中里介山「大菩薩峠 白骨の巻」原稿〈複製〉原本 日本近代文学館蔵
中里介山「大菩薩峠 他生の巻」原稿〈複製〉原本 日本近代文学館蔵
中里介山『大菩薩峠』1918（大正7）年11月 玉流堂
中里介山『大菩薩峠』1919（大正8）年4月 玉流堂
中里介山『大菩薩峠 形訳脚本』1932（昭和7）年12月 大菩薩峠刊行会
「大菩薩峠」新国劇パンフレット
「隣人之友」通巻84号 1933（昭和8）年12月

伊藤左千夫（いとう さちお）と山梨の歌人たち

- 神奈桃村「岩窟のおくまるところ真かゝやく黄金の像一寸八分」短冊
神奈桃村「岩窟に安置されたる百体の石の看音見てまわりけり」短冊
神奈桃村 岡千里宛葉書 1910（明治43）年1月3日消印

日原無限「真鏡と空澄渡りはらはらと木の葉を拂う初冬の風」短冊
 岡千里「永劫に山河亡ひす落椿すぎたる人の慕はしきかも」短冊
 岡千里「見てあれは地上にひたと落椿花われわれに玉のおと絶ゆ」短冊
 岡千里「吾児等のあさいはさめず紅のはなあたらしき落つばきかも」短冊
 岡千里「落椿みだれて赤き花屑に日輪黒くはめてある如し」短冊
 伊藤左千夫「敷妙の家のうちとの物みななきよきにきほひ咲ける花かも」短冊
 伊藤左千夫「よもつくにの道の長手をよろつたひかへりみすらむ旅の子ゆへに」短冊
 日原無限歌稿
 伊藤左千夫 岡千里宛書簡 1905（明治38）年7月2日
 伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1905（明治38）年12月28日
 伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1906（明治39）年2月14日消印
 伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1906（明治39）年9月22日
 伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1906（明治39）年11月11日
 伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1907（明治40）年6月27日
 伊藤左千夫 岡千里宛書簡 1912（明治45）年2月14日
 伊藤左千夫「寄せ書き」一枚物
 神奈桃村「神奈桃村日記」1916（大正5）年10月15日～1922年2月28日
 神奈桃村「神奈桃村日記」第3号 1906（明治39）年3月15日～1924（大正13）年11月19日
 「馬酔木」第3巻第2号 1906（明治39）年2月
 「馬酔木」第3巻第6号 1906（明治39）年10月〈復刻〉
 「アカネ」第1巻第4号〈復刻〉1908（明治41）年6月

秋山秋紅蓼（あきやま しゅうこうりょう）

秋山秋紅蓼「俳句四格調の説—自由律の限界と新表現の設定」原稿〈複製〉
 秋山秋紅蓼「表現律論」原稿 秋山秋紅蓼著『俳句表現論』に収録されている。
 秋山秋紅蓼「正月」句稿「層雲」1962（昭和37）年1月掲載
 秋山秋紅蓼「さくら」原稿「層雲」第40巻第3号荻原井泉水選、昭和27年6月1日発行に掲載。
 秋山秋紅蓼「処暑」原稿「層雲」第49巻第7号昭和36年10月1日発行に掲載。
 秋山秋紅蓼「葡萄郷甲州」原稿
 秋山秋紅蓼「富士が秋である田の道へ出る裏のみち」短冊
 秋山秋紅蓼 スケッチブック昭和27年10月画「黒部鐘釣温泉にて」ほか。
 「1952. 10写」柿のスケッチほか。
 秋山秋紅蓼『兵隊と桜』1940（昭和15）年1月 沙羅書店

田中冬二（たなか ふゆじ）と山梨

田中冬二「外は夜寒であったが」草稿
 田中冬二「五月の朝」草稿
 田中冬二「山麓」草稿
 田中冬二「秋の山家にて」草稿
 田中冬二「初夏」草稿
 田中冬二『晩春の日に』他原稿の内「渡鳥」草稿
 田中冬二『晩春の日に』他原稿の内「雪の信濃」草稿 詩集未収録
 田中冬二「サングラス掛けて薄暑の軽井沢」短冊
 田中冬二「昨夜よりの雨やみ麦を刈るばかり」短冊
 田中冬二「短日」色紙『山嶋』所収
 田中冬二 深沢 正志宛1964（昭和39）年7月23日
 田中冬二「ラムネ」色紙
 田中冬二「ラムネのやうな空気の村へ行かうよ」色紙
 田中冬二『青い夜道』1929（昭和4）年12月 第一書房

木々高太郎（きぎ たかたろう）

木々高太郎「たて糸よこ糸」原稿

木々高太郎「少年時代によんだ本」原稿

木々高太郎「笛吹一或るアナーキストの死」草稿〈複製〉

木々高太郎「書くということ」原稿「言語生活」掲載

木々高太郎『人生の阿呆』1936（昭和11）年7月 版画社

「新青年」第17巻第1号 1936（昭和11）年1月「人生の阿呆」第1回掲載

「文藝春秋」第15巻第3号 1937（昭和12）年3月 第4回直木賞発表

「シュピオ」第3巻第4号 1937（昭和12）年5月

林麟『頭よくなる本』（カッパ・ブックス）1960（昭和35）年10月25日9版（初版同年10月10日）
光文社

小尾十三（おび じゅうぞう）

小尾十三「青き大麦畠にて」原稿

小尾十三「青い林檎」草稿

小尾十三「母への反抗時代」原稿〈複製〉

小尾十三「親子だるま」原稿

芥川賞記念品の腕時計

小尾十三『雑巾先生』1945（昭和20）年2月 満洲文藝春秋社〈復刻〉

「文藝春秋」第22巻第12号 1944（昭和19）年12月〈登攀〉

村岡花子（むらおか はなこ）

村岡花子「赤毛のアン」第5章翻訳原稿〈複製〉

村岡花子「昔のこと、今のこと」原稿「横浜歩道」1964（昭和39）年7月号掲載

村岡花子「初めての本」原稿

「横浜歩道」第38号 1964（昭和39）年11月「初めての本」掲載

村岡花子「一ばん悲しいこと」原稿

村岡花子『赤毛のアン』1952（昭和27）年5月 三笠書房

村岡花子『随筆集心の饗宴』1941（昭和16）年4月 時代社

モンゴメリ『ANNE OF GREEN GABLES』〈複製〉

徳永寿美子（とくなが すみこ）

徳永寿美子「みつばちマーヤのぼうけん」翻訳草稿

徳永寿美子「みつばちマーヤのぼうけん」切り抜き

徳永寿美子「小公子」原稿〈複製〉

徳永寿美子『小公子』1948（昭和23）年5月 広島図書

徳永寿美子「ウサちゃんのおつかい」草稿

徳永寿美子「あしたはクリスマス」草稿

徳永寿美子「子供と童話」草稿

徳永寿美子「甲斐のくに七里が岩のいわつゝじあやに咲きけんう月のまひる」短冊

徳永寿美子『フランダーズの犬』1965（昭和40）年12月 盛光社

徳永寿美子『薔薇の踊り子』1921（大正10）年2月 アルス〈複製〉

八木義徳（やぎ よしのり）と山梨

八木義徳「胡桃」原稿

八木義徳「美しき晩年のために」原稿

八木義徳『『生れ出づる悩み』（有島武郎）原稿

八木義徳「第三次早稲田文学が復刊されたのは」原稿

八木義徳「文章は血と土とそして海の風から生れる」色紙

野口富士男 八木義徳宛書簡 1968（昭和43）年3月21日消印

「満洲観光聯盟報」第5巻第6号 1941（昭和16）年6月

八木義徳『風祭』1976（昭和51）年8月 河出書房新社
『八木義徳全集』第1巻 1990（平成2）年3月 福武書店 妻正子に宛てた献辞入

武田泰淳（たけだ たいじゅん）と山梨

武田泰淳「汗をかく壁」原稿「海」第8巻第4号 昭和51年4月1日発行に掲載
武田泰淳「魯迅とロマンティズム」原稿『武田泰淳全集』第12巻 昭和54年筑摩書房刊に所収
武田泰淳「わが子キリスト」原稿〈複製〉原本 日本近代文学館蔵
「新潮」1954（昭和29）年3月〈ひかりごけ〉
「海」第1巻第1号 1969（昭和44）年6月
武田泰淳『富士』1971（昭和46）年11月 中央公論社
武田泰淳『富士』特製愛蔵本 1972（昭和47）年10月 中央公論社
司修『富士』挿絵原画エッチング

李 良枝（イ・ヤンジ）

李良枝「あにごぜ」草稿「群像」昭和58年12月号に掲載
李良枝「あにごぜ」草稿一部北あり。「群像」昭和58年12月号に掲載
李良枝「由熙」草稿「群像」昭和63年11月号掲載
李良枝「ナビ・タリョン」草稿
李良枝「石の聲」草稿
李良枝『由熙』1989（平成元）年2月 講談社
李良枝『石の聲』1992（平成4）年9月 講談社
ソウル大学卒業証書 1988（昭和63）年2月26日

辻 邦生（つじ くにお）と山梨

辻邦生「含羞のエロス」原稿
辻邦生「ある生涯の七つの場所 祭の果て」原稿「海」1976（昭和51）年7月掲載
辻邦生「南イングランドの印象から」原稿
辻邦生「遠い花火」草稿『四季八十彩』昭和55年5月3日 日清製粉株式会社刊に「花火」と改題され掲載
辻邦生「君を夏の一日に喩えようか シェイクスピア「ソネット」の一部 吉田健一訳」色紙
「銀杏散りやまず」モノオペラ パンフレットチラシ
文学座公演「天使たちが街をゆく」パンフレット
「新潮」1982（昭和57）年2月「銀杏散りやまず」掲載
「海」創刊特大号 1969（昭和44）年7月 中央公論社
辻邦生『背教者ユリアヌス』1972（昭和47）年10月 中央公論社
辻邦生『銀杏散りやまず』1989（平成元）年9月 新潮社

第3室 芥川龍之介

【大川の水（誕生・少年期）】

伯母のふきが使った長唄稽古本
「牛乳の用法」パンフレット 1904（明治37）年11月 耕牧舎
芥川龍之介「義仲論」原稿

【空中の火花（文壇登場）】

菅虎雄筆「我鬼窟」扁額〈複製〉
芥川龍之介「鼻」草稿「新思潮」1916（大正5）年2月掲載〈複製〉
「新思潮」創刊号 1916（大正5）年2月
芥川龍之介「葬儀の記」原稿「新思潮」1917（大正6）年3月掲載〈複製〉
芥川龍之介「秋」草稿

芥川龍之介『傀儡師』1919（大正8）年1月 新潮社
芥川龍之介『点心』1922（大正11）年5月 金星堂
芥川龍之介『支那遊記』1925（大正14）年11月 改造社

【ぼんやりした不安（苦悩と死）】

芥川龍之介筆「澄江堂十首」卷子〈複製〉原本 天理大学附属天理図書館蔵
『近代日本文藝読本』全5巻 1925（大正14）年11月 興文社
芥川龍之介『湖南の扇』1927（昭和2）年6月 文芸春秋社出版部
芥川龍之介「文芸的な、余りに文芸的な」原稿「改造」1927（昭和2）年4月掲載〈複製〉
芥川龍之介「或阿呆の一生」原稿「改造」1927（昭和2）年10月掲載〈複製〉

【書画の魅力】

水彩画 1909（明治42）年、1910（明治43）年
小穴隆一『黄雀風』見返し原画
小穴隆一『黄雀風』表紙校正刷り
芥川龍之介「諸君は何の為に文章を作るや」額装
芥川龍之介 詩「風に舞ひたる菅笠の」額装
「初午の祠ともりぬあめの中」短冊
「炎天にあがりてきえぬ箕のほこり」短冊
芥川龍之介 菅虎雄宛書簡 1913（大正2）年11月17日

【芥川の俳句】

「春雨や霜に焦げたる杉ながら」ほか俳句草稿
「金を練る籠も古りて蚊食鳥」ほか俳句草稿
「黒南風の天斜めなる大ぞらや」ほか俳句草稿
「麦あらしすさびそめけり暮れにけり」ほか俳句草稿
「風光る杉山かひに村ひとつ」ほか俳句草稿
「蝙蝠や灯入りの月に人ふたり」ほか俳句草稿
「舟牢にからむ藻草や蚊食鳥」ほか俳句草稿
「朝顔や鉢に余れる蔓の丈」俳句草稿
「秋鯖やあだ塩とくる一日干し」他俳句草稿
「いく秋をふる盃や酒のいろ」俳句草稿
「巻煙草けむりの垂るる夜長かな」他俳句草稿
「生け垣はかたかげりつつ山茶花や」ほか俳句草稿
「山もとの夜長を笠のゆくへかな」ほか俳句草稿
「木がらしの海吹き凧げるたまゆらや」ほか俳句草稿
「盆梅の枝にかかるや梅のひげ」ほか俳句草稿
「土雛や鼻の先から日の暮るる」俳句草稿
「ホトトギス」1918（大正7）年9月
「ホトトギス」1919（大正8）年3月
芥川龍之介『梅・馬・鶯』1926（大正15）年12月 新潮社
「雲母」1927（昭和2）年9月号
『澄江堂句集』1927（昭和2）年12月 文藝春秋社

【芥川と山梨】

芥川龍之介「藤の花軒端の苔の老いにけり」軸装〈複製〉
芥川龍之介「水虎晩歸之図」額装〈複製〉
芥川龍之介 山本喜誉司宛書簡 1910（明治43）年10月14日〈複製〉
芥川龍之介 山梨夏期大学講演メモ〈複製〉
堀内柳南「コスモスを揺して月に来る人」軸装

【羅生門】

「羅生門」関連ノート〈複製〉
芥川龍之介『羅生門』1917（大正6）年5月 阿蘭陀書房〈復刻〉
芥川龍之介『鼻』1918（大正7）年7月 春陽堂〈復刻〉

【友への手紙】

芥川龍之介 井川恭宛書簡 1914（大正3）年1月21日〈複製〉
原本 大阪市立大学学術情報総合センター恒藤記念室蔵

【夏目漱石の手紙】

夏目漱石 久米正雄・芥川龍之介宛書簡 1918（大正7）年8月21日〈複製〉

【芥川と児童文学】

芥川龍之介 鈴木三重吉書簡 1919（大正8）年11月9日〈複製〉
「赤い鳥」創刊号 1918（大正7）年7月
芥川龍之介「蜘蛛の糸」原稿〈複製〉
芥川龍之介「杜子春」原稿〈複製〉
芥川龍之介『三つの宝』1928（昭和3）年6月 改造社〈復刻〉

愛用の水泳帽
『芥川龍之介全集』（1934年岩波書店）予約募集の凸版
愛用のペーパーナイフ
自筆俳句入扇面「明星のちろりにひびけほととぎす」

第4室 飯田蛇笏・飯田龍太記念室

【境川村小黑坂】

パネル 山梨県内の地図
飯田蛇笏・飯田龍太使用の硯
飯田家家相図 1899（明治32）年

【飯田蛇笏】

写真パネル 早稲田大学時代の蛇笏
「ホトトギス」第12巻第1号 1908（明治41）年10月「俳諧散心号」〈複製〉
「国民新聞」切り抜き
「ホトトギス」雑詠欄投稿〈複製〉原本 天理大学附属天理図書館蔵
飯田蛇笏「いもの露連山影を正しうす」句額〈複製〉原本 個人蔵
「ホトトギス」1914（大正3）年11月「芋の露」巻頭号〈パネル〉
飯田蛇笏『進むべき俳句の道』1918（大正7）年7月 実業之日本社
「キララ」創刊号 1915（大正4）年5月〈複製〉原本 東京都近代文学博物館蔵
「キララ」第2号 1915（大正4）年6月〈複製〉原本 東京都近代文学博物館蔵
「キララ」第3巻第11号 1917（大正6）年11月〈複製〉
飯田蛇笏「魂のたとへばあきの蛸かな」額装〈複製〉
飯田蛇笏「切株や雪とけしたる猿たけ」幅
写真パネル 家族と庭前で 1917（大正6）年撮影
飯田蛇笏『山廬集』1932（昭和7）年12月 雲母社 装幀 川端龍子
飯田蛇笏『山廬集』序文原稿〈複製〉
飯田蛇笏『靈芝』1937（昭和12）年6月 改造社
飯田蛇笏『山響集』1940（昭和15）年10月 河出書房
飯田蛇笏『白嶽』1943（昭和18）年2月 起山房 装幀 落谷虹兒
飯田蛇笏『心像』1947（昭和22）年11月 靖文社
飯田蛇笏『春蘭』1947（昭和22）年7月 改造社 装幀 木村莊八